

主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	甲 乙 第	号	氏 名	孫 可冀
主 論 文 題 目： 中国における湿地環境とツル類の現状と保全				
(内容の要旨) 中国における湿地の生物多様性保全政策の策定においては、根拠となる科学的な知見と、保全対象への認識が不足している。本論文は、生物多様性の二つのレベル、生態系のレベルに湿地を、種のレベルにツル類をそれぞれ選択し、人間の経済活動を通じたツル類の生息基盤への間接的な影響と、狩猟と販売などによるツル類への直接的な影響という二つの側面を考察し、中国の湿地とツル類の現状を把握する。開発した現状把握手法は湿地の生物多様性保全政策の策定に必要な科学的論拠を与える方法論として用いることができる。 この方法論の確立を巡り、本論文は大きく四つの部分で構成される。それぞれ①中国のツル類の重要生息地の抽出、②ツル類重要生息地の経済開発の歴史と現状、③ツル類の重要生息地の環境評価、④中国の鳥狩猟と販売の現状である。 ①では、個体の衛星追跡データと観測の組み合わせにより、ツル類の重要生息地を特定する。これにより、三江平原、松嫩平原、渤海湾地区、長江下流域の四つが重要であることを明らかにした。この調査は他章の前提として、本論文の検討エリアを特定する。②ではツル類の重要生息地において、中国が建国以来続けている大規模な開発活動を考察し、四つのエリアとも湿地が減少している現状を確認した。③ではツル類の重要な生息環境であるヨシ群落の健全度を評価するため、中国向海湿地を対象として、衛星画像と現地調査データを組み合わせたモニタリング手法を開発し、これによりヨシ群落の生息生長状況を正確に予測できることを明らかにした。これら②、③ではツル類の生息基盤への破壊と、生息基盤の破壊がツル類に与える影響を分析し、人間の経済活動がツル類へ与える間接的な影響を把握した。④では SNS を用いることにより通常では取得しにくい密猟を含む鳥狩猟と販売の現状を調査・考察し、人間の経済活動がツル類への与える直接的な影響を把握した。 キーワード 生物多様性保全政策、湿地、ツル類、経済活動、ヨシ群落の生息生長状況評価、鳥狩猟と販売、中国				